

女學生風紀問題

女高師教授 東 基 吉

▲女學生の風紀問題は、よし一般世間で取沙汰する程大袈裟でないにしても、よし所謂女學生と稱せらるゝもの、中には、多く學女生ならぬ他の下等婦人が含まれて居るといふにしても、兎に角この問題は女子教育上、決して忽に出来ない問題で、然も、これは獨り學校教育の力を以て解決することは出来ない、主として各自の家庭、及び社會全體の協力に待つべきものである。

▲現今の風紀を匡濟し、多數の女學生をして誤なからしむる方法は、勿論種々あらうが、別して、地方から遊學せしむる父兄等に警告したきは、其子女を決して下宿屋なり又は緣故もなき素人屋に寄宿せしめぬことである。女學生の風紀問題の解

決は、先づこれが實行を第一だと思ふ。而して學校の方に於ても、其學生がこういふ所に寄宿して居ることを決して許さぬ様にするのである。勿論、生徒を多數に收容して利益をのみ計らうとする學校では、到底これが實行は六ヶ敷と思ふが、これは當局に於て嚴重に制裁を加へて取り締れば宜しいと思ふ。こんな風にして正しく學校に籍を有する女學生といへば、悉く教師とか親戚とか知己の家に寄宿せねばならぬことにして仕舞ひた

いと思ふのである。

▲次は女學生の外出である。男女交際の最も自由な風といはれる米國に於ても、女子の外出には大に制限がある位なのに、我國の女子の外出が極めて自由であるのは寧ろ怪しむべきで、これがこの問題には非常に大なる關係をもつて居る。

この點に就いては各家庭では勿論、一般社會に於て年少女子の一人外出といふことに向つては、大に制限を加へ、午後一定の時間を限つて夫より以後は父母か又は年長の監督人かに伴はれるでなければ決して一人で外出をするものない様に、若し一人で外出する様なものは何れ下等婦人と相場の決つたものにして仕舞ひたいのである。

▲次は男女の交際である。目下の處では青年男女交際の自由なことは、或は本家本元の米國よりも反つて日本でないかと思ふ位である。此點に就いては新聞紙のいふ所全く事實でないとはいへぬ。一般世人の考ふる所必ずしも誤解だとはいへぬ。青年男女學生の相伴うて市中を散歩せるは近來殊に吾人の目にすら多く觸れる、時には郊外に共に寫生する一群もある、立派な官立の帽子も時に

十

は見える、彼等悉くが必らずしも兄弟姉妹ではあるまい。之等は何れも苦々しき次第ではあるがつまりは女學生の下宿生活、素人屋生活、若くは無制限な一人外出等から胚胎し來る結果である。

▲外國では年少の女子が一定の時間を過ぎて後、一人で外出したり、若くは青年の男子と相伴つたりすることは身分のある家庭では決して許さぬ教會にすら一人ではやらぬ。まして演劇其他の所に於てをやだ。此點から考へて尙、我國の教會の様な所に於ても、女子が夜間一人でやつて來るといふことは禁じたらよからうと思ふ。女子の集まるのは晝間にし、男子のは夜間といふ風に別にしても宜しからぬ。教會だからといつて集まる人が、必らずしも基督許りを崇拜信仰する人のみだとは限らぬ。否な綿羊の姿をして居る娘が事實多いの

だから。

▲小説家に向つて、青年男女の思想を寫した小説をかくことを禁ずることは無理である。俳優に向つて、同じ様な劇を演ずる勿れといふことも無理である。然し親切に女子教育の任に當る家庭が、各自この問題に注意して右の様な方法の實行を考究するとか或は暫く子女を是より遠くると云ふことは當然の義務ではあるまいか。社會は複雑なものですから或一部のものに惡るいからとして悉く夫れを社界からのけることは出来ない。教育上不都合なものは之を暫く被教育者から遠けるのが父兄の任務で其手数が面倒だからとして併せて社會からも除け様と云ふのは少し勝手過ぎる話だと思ふ。



婦人問題と男女交際

(日本家庭辭書のうちより)

西山 慈 治

題して婦人問題と男女交際といふ、二者共に家庭に關する根本問題にして、婦人問題より派生して女子天職の問題及び女子教育に關する研究の聲や起る可く、男女交際は結婚制度に影響して結婚問題殊に自由結婚に多大の關係を有し、此の結婚制度は直ちに家庭組織に煩を及ぼして世の所謂自由結婚を標榜するものをして別居制度を主張せしむ。頃者家庭問題の研究の盛なる、或は曰、婦人の獨立、女子の生活問題、地位を高めよと呼び、或は男女交際を稱へて自由を叫び、家族制度を打破して別居制度に従ふ可しを主張す、此等の多くは西歐に心酔せる人の口吻によつて傳へらる。然